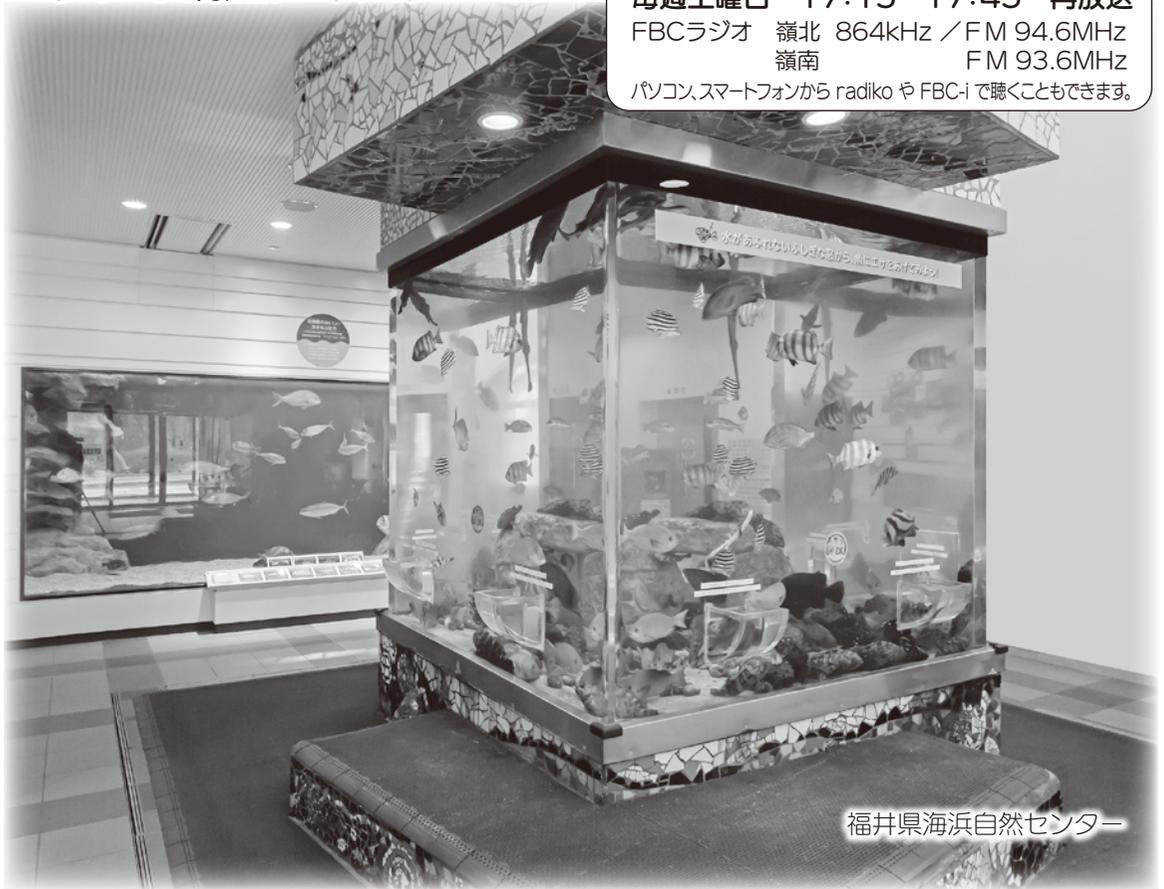


いきいきライフ

ラジオ講座テキスト

毎週日曜日 6:30～7:00 放送
 毎週土曜日 17:15～17:45 再放送
 FBCラジオ 嶺北 864kHz / FM 94.6MHz
 嶺南 FM 93.6MHz
 パソコン・スマートフォンから radiko や FBC-i で聴くこともできます。



福井県海浜自然センター

令和六年十月 もくじ

- 十月六日放送（第二十七回）
 食卓を彩るチーズたち …………… 2
 ハッピーチーズ 店主 高橋 かず子
- 十月十三日放送（第二十八回）
 SDGsを探求してみよう …………… 4
 仁愛大学人間学部コミュニケーション学科
 准教授 安彦 智史
- 十月二十日放送（第二十九回）
 障がいのある人の表現活動から見えてきたこと
 ～文化芸術を通して、
 多様性を楽しめる社会へ～ …… 6
 「みんなで舞台に立つ」を広げる会
 代表 酒井 晴美
- 十月二十七日放送（第三十回）
 本を通して「誰もが主役となり、
 自分を表現できる場所」 …………… 8
 私設図書館つぐみ司書 吉村 直美
- 感想文のコーナー …………… 10
- 文芸欄 …………… 15

■十月六日放送(第二十七回)

食卓を彩るチーズたち

ハッピーチーズ 店主 高橋 かづ子

私たちの食生活の中で、今ではすっかりおなじみとなった食品、チーズ。日本に初めて乳製品が登場したのは飛鳥時代と言われていて、当時は牛乳を煮詰めた蘇(そ)と呼ばれるものでした。その後乳製品は影を潜めましたが、戦後本格的にプロセスチーズ生産が始まり、スーパーでの販売や給食での提供などにより日本中に広まっていきました。そして近年、ヨーロッパを中心とした本場のナチュラルチーズが多く輸入されるようになり、その奥深い世界が日本に広がってきています。



チーズはまず「プロセスチーズ」と「ナチュラルチーズ」に分類されます。プロセスチーズは私たちに一番馴染み深く、6Pチーズなどアルミで包まれたものやスライスチーズ、とろけるチーズなどです。ナチュラルチーズを粉砕し、タンパク質を溶かす乳化剤を加え、加熱溶融乳化し、冷やし固めたも

のとなります。

ナチュラルチーズとは、牛・羊・山羊などの乳に乳酸菌と凝乳酵素(乳を固める作用のある酵素)を入れ、水分を除き熟成させたもので、原材料は基本的に乳と食塩のみです(一部熟成させないもの、また植物性色素やスパイス、お酒などを混ぜ込んだものもあります)。

私がこの10年間、店で取り扱ってきたのはナチュラルチーズになります。放牧の環境のもとでつくられるものは、季節によって生えている草花が変わるため、それを喰む動物たちのミルクも味わいが変わります。5、6月の芽吹く季節は栄養価が高く、干し草になる冬の期間は脂肪分も増え、ミルクの優しい甘みが広がります。熟成期間によって風味は変化します。若い時はミルクの甘みが感じられ、おだやかでまろやか。熟成が進むと、うまみが感じられ濃厚で深みのある味わいが広がります。どちらもそれぞれに良さがあります。

上質なミルクからつくられるその自然な味は、本当に心と身体に染み渡っていきます。前述の通りチーズにも旬があり、季節や熟成期間で味が変化します。日本で身近な味噌や醤油、漬物などの発酵食品と同じで、素材を生かした恵みの味を感じることができる食品なのです。

ナチュラルチーズの世界を深めていく上で覚えておくべきなのが、ナチュラルチーズには、色々なタイプがあるということです。日本でもお馴染みになってきたチーズの名

前を例に上げますと、モッツァレラやマスカルポーネなどは非熟成のフレッシュタイプ、カマンベールは表皮に白カビが生えている白カビタイプ、ゴルゴンゾーラは中まで青カビが入り込んでいる青カビタイプ、パスタに削るパルミジャーノレッジャーノは熟成の長いハードタイプです。

その他はあまり耳馴染みのないタイプになりますが、表面を塩水やお酒入りの塩水で磨きながら熟成することで表皮がねっとりし、強めの香りと味が生まれるウォッシュタイプ、山羊乳でつくられる、主にフランスのものがシェーブルタイプ。どのタイプのチーズも、カビや酵母酵素などの力によって、それぞれにしか出せない奥深い味わいが生まれ、その世界をより一層広げてくれるのです。

チーズは栄養価にも優れており、高タンパク質、燃焼しやすい脂肪酸、吸収されやすいカルシウムが豊富で、ビタミンC以外のビタミンがほぼ含まれており、低糖質なので糖質を気にされている方にもおすすめです。チーズにフレッシュな野菜や果物を添えれば、ビタミンCも補えるので、ぜひ一緒にお召し上がりいただきたいです。

ナチュラルチーズには魅力的なところがたくさんあります。まずは現地の自然と動物たち、生産者さんの心のこもった風味豊かなチーズを、切り立ての状態ですらとってもらい、目を閉じその季節の香りを感じながら食べ、その奥深さを知ってもらえればと思います。私もまだまだ未熟者ではございますが、大好きなチーズをみなさまに知って

ただけるよう努めていきたいと思えます。一緒にナチュラルチーズを楽しみましょう！



スイス景色2024



ヨーロツパチーズ売り場2024



コンテ熟成庫2017

講師略歴……高橋 かず子（たかはし かずこ）

1978年福井市（旧美山町）生まれ。福井県立大学卒業後県内印刷会社に就職。31歳の時に本格的なナチュラルチーズに出会い、勉強のため大阪に短期滞在し在宅ワークをしながらCPA認定チーズプロフェッションナルの資格を取得。福井に戻り県内のカフェや公民館などでチーズセミナーを開催しながら普及活動を続け、2014年福井駅前福井初のチーズ専門店「HAPPY CHEESE」をオープンし今年10周年を迎える。

■十月十三日放送(第二十八回)

SDGsを探求してみよう

仁愛大学人間学部コミュニケーション学科

准教授

安彦 智史

SDGs(持続可能な開発目標)は、2015年9月の国連サミットで150を超える加盟国首脳の参加のもと採択された、2030年までの世界共通目標です。17の目標と169のターゲットから構成されており、地球上の「誰一人取り残さない」ことを掲げています。SDGsの17の目標は、貧困や飢餓の撲滅から、教育、健康、環境、経済成長、平和に至るまで、世の中のほぼすべての課題を網羅していると言われるほど広範囲にわたっています。そのため、現代社会が直面するほとんどの問題は、何らかの形でSDGsに関連していると考えられます。

日本においても、SDGsの認知度は年々高まっており、旅行先や企業、スーパーマーケットなど、さまざまな場所



SDGsのロゴを目にする機会が増えています。多くの企業がSDGsへの取り組みを公表し、福井県もSDGs未来都市の認

定を受けるなど、社会全体でSDGsへの関心が高まっています。

しかし、2030年までの到達目標であるSDGsの進捗状況は、実はまったく順調とは言えません。2023年の国連の報告書によると、169のターゲットのうち「順調に推移している」と評価されているのはわずか15%にすぎません。国連はこの状況を「SDGsの危機」と表現し、目標達成に向けた取り組みの加速が急務であると警鐘を鳴らしています。日本国内においても、SDGsの認知度は上昇しているものの、169のターゲットの具体的な内容や、2020年、2025年などの中間目標の存在についての理解は依然として低いのが現状です。多くの人々がSDGsの概念を知っていても、その詳細や自分たちの生活との具体的な関連性については十分に理解していないケースが多いのです。

一方で、地域レベルでの取り組みは進んでいます。例えば福井県では、SDGsの普及活動を通じて、ジェンダー平等に向けた取り組みや、規格外野菜の再利用、脱炭素に向けたさまざまな取り組みなど、幅広い年齢層を巻き込んだSDGsに資する活動が展開されています。

このような状況の中で、私たち一人一人ができること、改めるべきことは何でしょうか。私が見る第一に重要だと考えるのは、SDGsについてより深く探求することです。私たちが日々取り組んでいる活動が、本当の意味でSDGsの目標達成に貢献しているのか、なぜそれが

SDGsと関連しているのか、ターゲットに根差しているか、どの程度の影響があるのかを改めて整理し、考察する必要があります。

例えば、ゴミの問題を考えてみましょう。

ゴミに関する課題は、市民の日常生活に直結しており、SDGsと関連付けて頻繁に言及されます。海岸のゴミ清掃、ゴミの分別、街のゴミ拾い、家庭ごみの削減運動など多くの団体や個人が積極的に取り組んでいます。これらの活動の実効性や影響を深く考察する必要があります。例えば、家庭で丁寧に分別されたゴミは、ゴミ処理場で本当に意図した通りに処理されているのでしょうか。SDGsを掲げて市ごとに詳細なゴミの分別ルールを設定したとして、観光客は困らないのでしょうか。これから福井も高齢化社会になっていきますが、高齢者や障がい者など、ゴミの分別が難しい人たちはどうでしょうか。公園からもゴミ箱が消えましたね、どのような理由があるのでしょうか。

こうした疑問を持ち、実態を調査し、より効果的な解決策を模索することが重要です。世の中には破壊的イノベーションという抜本的な見方もあります。例えば、「そもそもゴミを出しても環境に影響しない世の中」なんて実現できたらいかがですか？ もちろんそれを実現するには多くの人たちの努力と新しい技術革新が必要でしょう。ただ、覚えておいてほしいことは無理をすることや我慢を強いることがSDGsではないのです。より多くの人が豊かで幸福であり、それを持続させるためのSDGsであることが

根底にあることを忘れてはいけません。

SDGsの達成に向けては、表面的な取り組みだけでなく、根本的な問題解決を目指す必要があります。そのためには、私たち一人一人がSDGsの本質やターゲットを理解し、多角的な視点を持ち、自分の生活や地域社会との関わりを深く考察することが求められます。

また、個人の取り組みだけでなく、企業や政府、国際社会との連携も不可欠です。2030年までの目標達成は決して簡単ではありませんが、私たち一人一人が意識を高め、具体的な行動を起こすことで、持続可能な社会の実現に向けて前進することができるはずです。SDGsは単なる目標ではなく、私たちの未来を形作る指針であり、そのための行動の原動力となるものです。今一度、SDGsの意義を再確認し、改めてSDGsを探求してみませんか。自分でできること、やりたいことから始めていくことが、よりよい未来への第一歩となるでしょう。

講師略歴……安彦 智史（あひこ ちし）

1986年京都府京都市生まれ

関西大学大学院総合情報学研究科 博士課程後期課程 修了(博士(情報学))

福井県警察サイバー犯罪テクノロジーカルアドバイザー

総務省福井県青少年安心・安全ネットワーク利用促進連絡会 座長

福井県青少年愛護審議会 委員

FUKUI-SDGS AWARDS 創設者

■十月二十日放送（第二十九回）

障がいのある人の表現活動から見てきたこと
〜文化芸術を通して、多様性を楽しめる社会へ〜

「みんなで舞台に立つ」を広げる会
代表 酒井晴美

●「みんなで舞台に立つ」を広げる会とは？

障がいのある人たちを真ん中におきつつ、障がいの有無に関係なく表現することが好きな人たちがみんなで舞台に立つという活動。通称「みなぶた」。2005年の設立以来、年1回の自主公演を続け、来年2025年に20周年を迎えます。

参加者は、主に知的障がいや自閉症、発達障がいのある方々、運営は、保護者、講師、ボランティアなど有志が行う任意団体です。

●障がいのある人の活動の場がない！〜「みなぶた」が

できたわけ〜

私は、障がいのある人とかかわることなく成人しましたが、ある時、知的障がいの特別支援学校へ赴任することになり、そこで、障がいのある人たちの表



現に接しました。自由で、よく見せようという欲が全くない彼らの表現は、私を解放してくれる気がしました。いつしか彼らと一緒に表現活動をしたと思います。

しかし、2005年当時、知的障がいのある人たちが表現活動できる場、まして発表をする場は、私の知る限り皆無でした。「障がいがあるというだけで好きなことができない」現状を何とかしたい、そして、「ないなら作るしかない」ということで立ちあげました。

●固定概念にとらわれない、価値観を揺さぶる〜活動で大切にしたこと〜

活動で大切にしたことは、「わかりやすさ」です。何をすることができるだけ見通しが持てるようにする、短い言葉で説明する、言葉より実際に動きを見せるなどです。

「みなぶた」の表現活動は、太鼓とダンスがメインです。これらは一般的に、一糸乱れず揃うことが美しいとされるのではと思いますが、「ここでは、「揃う」という基本線はあれど、自由な表現も大切にしました。一人一人できることが違うという理由からです。しかし、あるコンテンツポラードンサーの方に、「何もしないことも含めて、自分のやりたいように人の前に立つ、その強さに感動する」と言われ、何もしないことも表現ととらえる、自分たちでは気付けなかった新たな価値観を得ることがありました。何より大切なことは、「ここあるべき」という価値観や固定観念に気づき、いかに変えていくかということでした。そう

することで、障がいのある人たちの表現がもっと魅力的になり、輝いてくるという確信を持つことができました。

●「みなぶた」の活動 ～現在の3つの柱～

①年1回の自主公演

のべ20回程度の練習の後、自主公演という流れ。観客の方から「元気をもらった」「障がいの有無は小さなことと気づいた」などの感想をいただいています。

②外部出演

年に10回程度、外部団体のイベントなどに出演。これまで、福井しあわせ元気国体の開会式、式典演技(2018)を始め、県外イベントにも4回出演。

③特設のワークショップ

数年に一度、活動を広め新たなつながりを作ることを目的としています。これまで、「ミナブタフェス」「コンテンツポラリダンスワークショップ」などを行いました。

●「みなぶた」の活動が広がること ～これから目指すところ～

活動を始めた頃は、何より障がいのある人たちの表現の場を作ること、次に仲間同士で協力し、楽しみ、生きがいとなる場とすること、さらに、この活動を広めて多くの方に舞台を見ていただくことと目的が変わっていきました。

今は、障がいのある人の表現を見てもらうだけでなく、その場のみんなが共に表現を楽しめる場を多く作れたらと

考えています。なぜなら、障がいのある方は、できないことが多いと思われるかもしれませんが、「みなぶた」の活動を通して、価値観を変えることで全く見方が変わることを実感したからです。それを多くの人に体感してもらいたい。

文化芸術は、障がいの有無、国籍、年齢などにとらわれず、みんながフラットな状態で、楽しく自然に交わることで、できる力を持っています。この先、だれでも加齢によって、

病気やけがなどによって、状態が変わっていくことがあります。だからこそ、多様な人々の多様な文化を楽しむ、交わり、お互いの良さや個性を感じあえることができれば、きっとだれもが優しく、だれもが輝ける生きやすい社会になっていくのではないかと思います。



福井しあわせ元気国体

講師略歴……酒井 晴美(さかい はるみ)

福井県福井市出身。福井市内小学校の教員で特別支援学級を担当。支援学校で出会った紙口ポット作家ムラタクンの美術表現にも魅入られ、その創作・発表への支援も続けている。劇団「演衆やむなし」の役者、NPO法人福井芸術・文化フォーラム理事。

■十月二十七日放送 (第三十回)

本を通して「誰もが主役となり、 自分を表現できる場所」

私設図書館つぐみ司書 吉村直美

みなさんは、図書館と聞くと多くの方が「公共施設をイメージされるのではないかと思います。今回は公共施設ではない私設図書館「みんとしよ」についてお話しします。私たちはそのみんとしよのひとつ、福井県鯖江市にある「私設図書館つぐみ」を運営しています。

●つぐみのはじまり

この図書館は、東京に住む前田鎌利館長が、生まれ育った街に何か恩返しをしたいという念い(おもい)を持った頃に、静岡県の焼津駅前商店街の一角で運営されている「み

しました。その頃の館長の夢に私も共感し、司書として運営に携わらせていただくことになりました。

●設立の背景と動機

館長の本への念いは、小学校時代の思い出にさかのぼります。当時、彼は図書委員として活動しており、本に囲まれることが大好きでした。特に、ポプラ文庫の怪盗ルパン全集や小学館の入門百科シリーズは、友達と取り合いになるほどの人気があり、今でもその時のワクワク感を忘れられないそうです。

このような経験から、館長は大人になった今、子どもころを過ごした鯖江の地に図書館を作り、多くの人々が本を通してつながり、誰もが主役となり自分を表現できる場所を作りたいという念いが広がっていったようです。そして、クラウドファンディングを通じて、図書館の設立に必要な資金を全国から集め、「私設図書館つぐみ」を2022年4月29日に開館することができました。開館以来、図書館は地元の「コミュニティにおいて新たな交流の場となっています。

●図書館の取り組み

「私設図書館つぐみ」の特徴的な取り組みの一つが「一箱本棚オーナー制度」です。館内設置の一箱本棚を月額1000円で借りた人(オーナー)たちは、自分がか心を動



んなの図書館さんかく」に出会ったことから始まりました。本が大好きな館長はその取り組みを見て、「本と出会う喜び」をたくさんの人に届けたいと、鯖江市でも図書館を作ることを決心

かされた本や、他の人に読んでほしい本を並べ、その念いを訪れる人々に伝えていきます。

また、普段は無人で運営されており、本を借りたい利用者は「リブライズ」というアプリを使って本を借りることができます。スマホがない方は、貸し出しノートに手書きして、本を借りることができます。利用方法については、図書館内に掲示された説明を参照しながら、簡単に本を借りたり返したりすることが可能です。

本の貸し出しだけでなく、オーナーさんが好きなことや得意なことイベント開催をすることもあります。3年目の今年は、地元鯖江高校とコラボイベントも開催しています。

●利用者のエピソード

図書館は、商店街にある市民ホールつつじの1階にあります。図書館は誰でも自由に出入りが可能な場所です。休館日以外は入口の扉は開けてあります。

私がある日図書館に行ったところ、商店街にある美容室の90代のご主人が、訪問リハビリの方と一緒に散歩の途中に図書館へ立ち寄られていました。その方は何十年前から私が知る方でしたが、その日初めて、なぜ東京から福井に来たのか、どんな人生を送ってこられたのかという話を語ってくださいました。彼のお話は、まるで一冊の本を開き物語を聞いているかのようでした。

また、毎週特定の曜日に図書館で仕事や勉強をする方もいます。彼女は、図書館で過ごす時間がとても有意義であり、他の利用者との会話も楽しんでいるようです。普段一人で仕事をしている彼女は、図書館で時々人と話をすることで勉強も仕事も捗ると話してくれました。こうした交流が、図書館を訪れる人々にとって、ただの「図書館以上」の価値を提供しているのだと感じています。



●新しい出会いと繋がりがからまた新しい何かへ

図書館では、多様な価値観に触れることができ、訪れる人々が自分自身の内面と向き合い、新しい発見をすることができると考えています。

また、図書館は「伝える場」でもあります。好きなことは、喋りが上手い・下手に関係なく、いくらでも話せてしまいますよね。何かのプロでも職人でもない一般の人が、本を通して「好き」を表現し、伝えられる場所であってほしいと願っています。

今後は、読書会や季節ごとのイベントを定期的で開催しながら、本の楽しさや、表現すること、人と交流することの楽しさを多くの人々に伝えたいと考えています。「私設図書館つづみ」が、世代を超えた交流の場となり、愛される場所であり続けることを目指しています。

講師略歴……吉村 直美（よしむら なおみ）

1971年福井県鯖江市生まれ。アパレル製造業の会社で管理職を経験した頃コーチングに興味を持ち学び始める。コーチングを学ぶ中で、自分がとても人が好きなことに気づき、つながりの大切さを強く感じ、「つながりの場、表現の場」としての図書館のコンセプトに深く共感し関わることとなる。その後、学生の頃から30年携わった繊維業界を離れ、私設図書館を運営する株式会社固へ入社。現在は、図書館司書とコーチングの2つの仕事で、人とのコミュニケーションを楽しむ日々を送っている。

感想文のコーナー



このコーナーは、受講生の皆様から寄せられた感想文を紹介いたします。紙面の都合上、すべての感想文を紹介できないことをご容赦ください。

■八月四日放送（第十八回）

こんぶを知って地元愛

江端 弘樹 先生の感想文より

▼藤沢 静子（百六十四番）

「コンブと昆布の使い方に違いがあるということとは知らずに読んだり記したりしていて、藻類も「もるい」と読んで知りました。目から鱗ばかりでした。

昆布類の食べ物は大好きで、よく食卓に登場しますが、コンブから昆布製品になって私たちの所に来るまでの大変な苦勞も分かりました。

幼い時、母親が作ってくれた、昆布をまぶした大きなおにぎりも懐かしいです。高値の海苔巻きや、巻き寿司は遠足等の特別の時だけだったようです。昆布の佃煮の消費ラッキングが全国一位とは意外でした。昆布巻きは昔から当たり前のように食べていて、お祝いの膳には母が必ずつくってくれました。福井自慢の「ソウルフード」として私たちが全国に誇りをもって広報するべきだと思いました。

▼前川 康子（二十四番）

『母徳ぶ おぼろ昆布の こぎりめし』 康子

昆布が夏の季語とは知らず、講話のあと一句できました。福井の「こぶ巻き」は大好きで、おせちや家の行事の他、「にしん」の代わりに人参、油揚げを入れて作ります。全国一位のこぶ巻きを誇りにしたいです。

「コンブ」にメス、オスがあること、命が宿っている「コンブの一生」、海草の緑、茶、赤色のことなどを知り、楽しかったです。

昆布巻きやとろろ昆布は福井自慢の伝統的な食物と家族にも伝えます。大阪生まれの「こんぶ博士」ありがとございました。

▼木谷 直子（百八十四番）

亡き夫が大好物だったので昆布巻をよく作っています。芯は身欠きにしんですが、手間がかかるので何か他によいものはないかと思案中です。

昆布は何気なく使っていました。先生のお話を聞いて、「生き物、ああそつだった」と改めて深く考える機会を得られて大変良かったです。藻類であって二年もかけて三から五メートルに成長。一年目芽生えて細く長く育って、二年目に立派な昆布に成長し、オスとメスの遊走子を放出して寿命を終える。コンブ類は世界に一四〇種あり、日本はその四分の一程度分布しているとのこと。

福井県は日本一の昆布好き。とろろ昆布のおにぎりは北陸三県でだけ食べられているとは意外でした。五月に若芽が出始めると実家に送るのが習慣になっています。ありがとうございます。

■八月十一日放送（第十九回）

好きな落語で詐欺を撲滅

芳野亭 笑翁 先生の感想文より
(大久保 直繁)

▼前川 嘉津子（二百十八番）

実話にもとづいた詐欺事件を落語で楽しく聞くことができました。落語は自然と自分の中に溶け込んでいきます。今回の弁当の話は破格の値段に欲を出し、詐欺被害に遭ってしまった話でも理解しやすかったです。

自分の子どもに注意されると素直に聞けないのが高齢親。また、被害に遭っても息子に怒られるから言わない。自分の金で被害に遭ったんだから迷惑はかけていないと結局一人で決めて詐欺被害に遭う人も少なくないそうです。

今、福井でも高齢夫婦世帯が多くなってきています。いつまでも大丈夫と思わず、自分でテレビや新聞からの情報を入れて、日常生活の中で家族と日頃から話しあっておくのが大事だと思いました。

▼松澤 甚三郎（三十八番）

『鶴の恩返し』の後に話された『サギの恩返し』は、『舌切り雀』や『花さかじいさん』の話と似ていて、世の中には何もせず得する甘い話はないという詐欺の話。

公園で弁当安売りのピラが配られ、お弁当1980円を100円にするというチラシを見て、時間がないと焦ってQRコードで1000個お願いし振り込んだ。ところが、待っていても弁当がこない。詐欺にあったと気付く。

この話は、「高級焼肉弁当1980を100円で販売」という実話が元だが、慈善団体が行っているのならいざ知らず、まずこの値段では考えられない。そして「QRコードで注文し決済」。ここに、詐欺の手口が隠れている。詐欺を働く者は相手に得する利益になると思わせ、今でなければ時間がないと焦らせ、疑いや考えを検討する時間を与えず、自分たちの思っように操る。

そこで、第1に今その物品がどうでも必要か、第2に注文は後でもよいのではないか、第3に相手は信用できる会社か、第4に商品の返品はできるか、第5に代金をどのように支払うかなど、落ち着いて可能な限り疑うことが必要。簡単に儲かる話、得することなどこの世にはない。あるとすれば、窃盗、殺人、詐欺など犯罪行為でしかありえない。甘い話には乗らないこと、欲を出さないこと、先ほどの5つの確認が大切だと思う。

▼杉下 信夫（八十八番）

「鶴かと思ったらサギだった」という落ちが面白い。口座からの引き落としがなかったのは幸いでした。サギに会って力毛にならないように、甘い話には裏があることを、改めて肝に銘じたいと思います。

10年以上前に、固定電話をディスプレイ付きのものに買い替え、留守電機能もあって、変な番号からちよくちよくかかってきますが出ないようになっています。

■八月十八日放送（第二十回）

鉄道と港のまち敦賀

増田 正樹 先生の感想文より

▼中野 利子（百三十一番）

私は五年間ほど敦賀で暮らしたことがありますが、今日聴かせていただいたようなことは知らずに過ごしてしまいました。出掛けたのは、気比神宮、日本三大松原の一つ気比の松原ぐらいでしょうか。話し言葉は関西弁に近かったように思います。

令和六年に北陸新幹線金沢―敦賀間が延伸開業、東京駅の掲示板に「敦賀」と表示されたことが、敦賀に育った者には嬉しく誇らしいことと、先生は語られました。

それから、北前船の話もたくさん聴かせていただきました。敦賀は三方を山々に囲まれ、一方が日本海につながる

天然の良港であり、寄港地として繁栄した港町。また、陸路と海路の結節点として物流の要所でもあり、大陸への玄関口でもあったのです。

二つの人道支援について、シベリアを放浪していたポーランド孤児を救ったことは全く知りませんでした。これからも敦賀の魅力を発信してくださいますようお願いいたします。

▼中山 慶子（二百六番）

今年初めてハピラインを使い敦賀まで出かけました。行き先は金ヶ崎宮と敦賀きらめきみなと館でした。敦賀港の直ぐ側で風が気持ちよかったことを思い出しました。

今日ラジオのお話をお聞きして、敦賀は日本の物資流通の要所であり、シベリアやその先のヨーロッパへ続く大切な場所だとわかりました。敦賀は北前船の寄港地でもあり、また難民の受け入れ場所にもなったりして、立ち寄る人たちを温かく迎え入れた敦賀の優しい人々が想像されます。

そんな歴史を知らない私は、敦賀は新幹線の終着駅で名古屋や大阪への乗り換えの駅くらいの認識しかありませんでした。今度は北前船の様子がわかる右近家や杉原千畝のことがわかる敦賀ムゼウムなどを見に行きたいと思えます。

▼松村 政子（六十二番）

明治15年に日本海側で最初の鉄道、長浜―敦賀間が結ばれ開業。令和6年3月16日北陸新幹線の金沢―敦賀間が延

伸開業と、敦賀は北前船の寄港地として衣食住に貢献、繁栄した港町です。

こんにちは、敦賀港には国際港として、帆船、海の貴婦人「海王丸」、豪華客船が入港しています。また、敦賀は陸路と海路の拠点の役割を担い、人道のエピソードが残っています。シベリアを放浪していたポーランド孤児たちを救出し祖国に帰国させたことや太平洋戦争の前年にユダヤ難民を救った杉原千畝領事代理が発行した命のビザ。

お客様に「敦賀は自然豊かなまちです。悠久の歴史と文化が息づいています。鉄道の港のまち敦賀の魅力を感じてください」とご案内されるのはもっともだと思います。敦賀のまちの、益々の繁栄を願っております。

■八月二十五日放送（第二十一回）

地域の魅力をビジネスに
くあなたは地域のプレゼンターく

高原 裕一 先生の感想文より

▼西尾 桂子（百七十七番）

福井には社長さんが多いという話はよく聞く。今日は起業のお話で、先生は初心者起業家の応援・サポートをしておられる。

ビジネスには着眼点が大事と教わった。起業するには、人を納得させる「物語」が絶対に必要なのだと思う。

最近、新聞で「ナラティブ」という言葉を知った。これは、

「物語」という意味ではあるが、単なる「ストーリー」ではなく語り手自身が紡ぐ物語であるとのこと。起業への道は正に「ナラティブ」だと思った。

例に挙げられた高校二年生の楽器シェア。自校では自分のやりたい楽器が不足しているが、他校では余っている場合もある。学校同士で使っていない楽器をシェアしたらどうだろう。後々の後輩たちのためにも。何という素晴らしい発想だろう。他の幾つかの例も、ご自分の経験から、社会に役立つ視点に向かっている。不便さや自分を含めた地域の強みから発想する起業へのアイデアは、より多くの人々の幸せの方向に向かっているのだと思う。

▼村寄 百合子（二十八番）

今まで福井は社長が多いと言われているが、どうしてだろうと思っていました。今日のお話で先生たちの活動が大きな力になっていることを初めて知りました。

①ビジネスの着眼点について②ビジネスの着想について③ビジネスプレゼンテーションについてー教えていただきました。ビジネスプランコンテストがあることも初めて知りました。

そして、どんな価値のある未来を創ろうとしているのかを伝え、感じてもらうことを大切にしてチャレンジしてほしいとのこと。地域経済活性化のため、益々のご活躍を祈っています。ありがとうございました。

▼福岡 隆夫（二百二十八番）

福井県は社長さんが日本一たくさんいる。県民73人に1人とのこと。それだけ起業できる事業とやる気ある人が多かった。繊維王国福井として以前は通りを歩くと機屋の音が聞かれ、また、狭い小路では鉄を打つ音と火花が見られた。苗木の生産、果実を育てる農園もあり、地域の祭りでは特産品として夜店に産品が並んでいた。

退職の何年前になると、起業、創業の夢が膨らむ。『誰でも創業者』と聞かされた。自分だけでなく、誰かと、何人かと話し合い、あれこれと意見し合った。アドバイザーがいなかったか、相談できる機会が無かったか、講座で聴くようなことを検討した記憶がない。北陸新幹線が開通して、今が大きなチャンスかもしれない。新たな需要をあれこれ見つけ熟考して、空き家対策をも利用して起業が増えることを期待したい。チャレンジ精神の開花は準備された心に訪れると思われ、また理解者、共感者が集まると考える。



事務局通信

【修了認定について】

感想文を毎月1回以上および毎回提出された方には、修了式において修了証書（皆勤賞）を授与します。

なお、修了証書発行の対象となる感想文の提出期限は、令和7年2月28日（金）（当日消印有効）です。これ以降の発行はできませんので留意ください。

【表彰について】

継続して修了認定を受けている方は、以下の表彰対象になります。

【連続皆勤表彰】

修了証書皆勤賞の交付が連続5年に達した方

（5年連続皆勤、10年連続皆勤、15年連続皆勤…）

【優良修了者表彰】

修了証書の交付が5回に達した方

（優良修了5回、優良修了10回、優良修了15回…）



文芸欄

俳句

乗り降りには友の老い知る秋の旅
名目や話し相手は横に居ず

江守 和子（二百二十三番）

薪くべて湯かげん問うた遠い秋
七輪に秋刀魚焼いてた幼き日

小山 美令（二百四十一番）

住む人のなき庭荒れて柿紅葉
秋つらら会話ぼつぼつハーブティー

増田 寛子（二百四十六番）

パリ五輪カツポーズに目が潤む
日の丸の旗がきらめくパリ五輪

前川嘉津子（二百十八番）



発行所 (福) 福井県社会福祉協議会

〒910-0856 福井市光陽 丁三十一番二

FAX 電話 076-2441433

令和6年度

<https://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険

検索

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

ボランティア活動保険



新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類感染症に変更されたことに伴い、「特定感染症重点プラン」を廃止して2つのプランとします。

保険金額・年間保険料 (1名あたり) 団体割引20%適用済 / 過去の損害率による割増適用

プラン		基本プラン	天災・地震補償プラン	
ケガの補償	死亡保険金	1,040万円		
	後遺障害保険金	1,040万円(限度額)		
	入院保険金日額	6,500円		
	手術保険金	入院中の手術	65,000円	
		外来の手術	32,500円	
	通院保険金日額	4,000円		
	特定感染症	補償開始日から補償 ^(*)		
	地震・噴火・津波による死傷	×	○	
賠償責任の補償	賠償責任保険金 (対人・対物共通)	5億円(限度額)		
	年間保険料	350円	500円	

商品パンフレットは
こちらから



(ふくしの保険
ホームページ)

*特定感染症についても10日間の免責期間がなくなり、補償開始日から補償対象となります。
なお、令和5年5月8日以降、新型コロナウイルス感染症は補償対象外となりました。

<重要>

- ◆ 基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆ 年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆ 中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆ 途中でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。

ボランティア行事用保険 (傷害保険、国内旅行傷害保険特約傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償 (傷害保険)

福祉サービス総合補償
(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

(引受幹事) 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL: 03 (3349) 5137
受付時間: 平日の9:00~17:00 (土日・祝日、年末年始を除きます)
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03 (3581) 4667
受付時間: 平日の9:30~17:30 (土日・祝日、年末年始を除きます。)